

## 岐阜県立多治見病院

地方独立行政法人岐阜県立多治見病院は、その開院以来、岐阜県東濃地域の基幹病院として、がん治療をはじめとした高度な医療を地域住民へ提供し続けてきました。すでに築年数が40年を超える既存建物も存在し、老朽化や狭隘化により、現在の医療水準に見合った医療サービス・療養環境の提供が困難な状況となりました。そこでこの状況を改善すべく「21世紀型の病棟整備」を目標とし、現在地に460床の病棟を中心とした機能の増築を行いました。既存建物撤去後には、約340台の駐車場整備、及び患者テラス新築工事を行い、本計画での整備が完了します。

21世紀における医療施設の姿として、「ライフスタイル意識の変化に耐えうること」・「現在地で持続的にサービスを提供し続けられること」・「進化を支えるシステムを保有すること」を想定し、「個別性の尊重・持続性の確保・進化に耐えうるハード」が病棟計画の基本をなすキーワードと認識しました。このキーワードの実現に向け、以下にあげる項目を重点課題と考え、計画を進めました。

### ■進化する病院建築

狭隘な現在地に、1段階工事で建替えを行う計画としました。新病棟を1段階で建設することで、次期新診療棟建設時の敷地余地を十分に確保することが可能で、長年の懸案事項でもある、大規模駐車場の整備も実現できます。また、主要構造部を鉄骨造の大スパン架構とすることで、将来起こりえる様々な変化に耐えうるハードを備えることが可能となりました。

### ■個室率55%の病棟

1看護単位の大きさを42～44床とし、個室率を55%強まで向上させました。個室率の向上は、個別環境の選択性の拡充・病床回転率の向上に寄与します。

### ■個別性の尊重

4床室においてもより個室的な環境を提供するため、個室の4床室としました。4床室の廊下側のベッドにも固有の窓があり、患者は自らの意思で「光と風と眺望」をコントロールすることが可能です。

### ■居場所の選択性

病棟の各所に、広がりや大きさの異なる居場所（食堂や談話コーナー）を分散配置しました。患者や家族の病棟内での「居場所の選択肢」が広がり、病室以外においても療養空間の広がりを創造することを意識しました。

### ■急性期ケア現場での高齢化対応

急性期ケアの現場においても、今後患者の高齢化が予測されます。そこで、病室に附属されているトイレは車椅子での利用が可能な広さとし、また病室についても、患者急変時にベッドの移動が可能な寸法を確保しました。さらに、病室出入口から患者の様子が視認しやすいベッド配置としました。

### ■ヒノキ香る療養環境

アトリウムや外壁には地元産の「美濃焼タイル」を、病棟廊下の腰壁には「県産材ヒノキ」を使用しています。これら仕上材と「美濃和紙ブラケット照明」や間接照明、タイルカーペット等を組み合わせることで、温かみと落ち着きのある療養環境づくりを目指しました。

今回私たちが提案をした「変化に対し柔軟で、かつ利用者の個別性を尊重した病棟計画」が、今後文字通り、その骨格である「個別性の尊重」を失うことなく、世の医療情勢の急激な変化に対応し「進化」していく姿を、設計者として見守り続けたいと思います。

(文責 川島浩孝 中達夫)

所在地	岐阜県多治見市
病床数	627床 (増築460床)
構造・規模	鉄骨造 (一部コンクリート充填工法造) 地下1階 地上8階
延床面積	27,012 m <sup>2</sup> (増築部分)
竣工	2010.02
写真撮影	小羽写真事務所
設計監理	共同建築設計事務所 (JV)